

令和6年度 八王子市立由井第三小学校 学校経営報告

八王子市立由井第三小学校

校長 筒井 泰行

令和6年度の取組目標(重点)と方策について

(1) 豊かな心の醸成

- さわやかな挨拶や言葉遣いを基調として自己肯定感の醸成を図る。
- 自他を尊重する精神を養い、生命を大切にする言動がとれるようにする。
- いじめや暴力は絶対に許さないという強い信念を醸成する。
- 「夢大地」を活用した教育の充実と、郷土愛を醸成する。

【主な取組】

- ・ 挨拶の定着、適切な言葉づかいや話し方、相手を尊重した呼名などの習慣化
- ・ 「八王子市いのちの大切さを共に考える日」の実践
- ・ いじめ防止のための授業(1回/学期)の実施
- ・ 「こころの日」(月1回)、道徳授業地区公開講座の実施
- ・ いじめ対応のための時間(金曜6校時)の有効活用と充実
- ・ いじめ防止のための教員研修(1回/学期)
- ・ 優れた地域人材や環境を生かした郷土学習の充実

【成果と課題】

- 挨拶に関する学校評価の児童アンケートでは、94.7%の児童が肯定的な回答を寄せ、昨年度より一層自己評価が高まり、挨拶が定着してきている。
- 学校評価(児童アンケート)の中で、「先生たちはいじめをゆるさない学校づくりに取り組んでいる」という質問に対し、後期には84.9%にまで上昇し、昨年度より好結果を得られた。ふれあい月間のいじめアンケートの記述内容について丁寧に聞き取り、担任等が対応した結果と思われる。
- 「こころの日」は、5年目にして、児童、保護者ともに定着してきた。テーマに沿った対話を通して、道徳的価値について考える貴重な実践の時間となっている。また、実践の蓄積が進み、記録を見返すことで教員のOJT研修にもつながっている。
- 毎週行う「学校いじめ対策委員会」、いじめ防止のための教員研修を通して、教員の「いじめ防止」に関する感度が高まってきた。児童が、教師やSCに相談しやすい環境が整備された。
- 学校運営協議会主催の海洋教育授業を、今年度も引き続き実施することができた。複数の学年において、地域の教育材を活用した授業を新たに展開することができた。
- 「夢大地」については、各学年とも前年度にならって継続、実施できた。低学年から生活科の授業で、地域に出て学習する機会が多く、郷土を愛する心情につなげることができた。
- 保護者アンケートにおいて、挨拶や礼儀に関する項目での肯定的評価75.8%と昨年度より下がり、児童の自己評価との乖離が見られた。地域でも明るく挨拶ができるようにしたい。
- 挨拶や適切な言葉づかい、話し方などについては、児童の間に差が見られる。家庭の協力も必要であることから、道徳授業地区公開講座や保護者会の機会を有効に活用していく。

(2) 確かな学力の育成

- 生きて働く知識や技能を習得させる。
- 主体的に学び続ける力を身に付けさせる。
- 小中一貫「由井中学校グループ」の学力向上プロジェクトチームにおいて情報共有を綿密にし、共通の取組を計画・実施する。

【主な取組】

- ・ 一人一台の学習用端末の積極的活用と指導の充実
- ・ 学びを振り返る時間の確保
- ・ 個別学習支援（朝学習・のびのびタイム）の内容の精選
- ・ 授業の構造化、課題解決学習の設定
- ・ 東京ベーシック・ドリル、八王子ベーシック・ドリルの効果的活用
- ・ 八王子市学力定着度調査（4～6年実施）の分析・共有・指導への活用
- ・ 校内研究の充実による教員の指導力の向上

【成果と課題】

- 学年の発達段階に応じて、一人一台の学習用端末を授業に取り入れる教科や単元、学習場面が増えた。その結果、児童の評価も高く、96.0%が肯定的回答を寄せた。
- 校内研究において、国語科「読むこと」について年間4本の研究授業を実施できた。若手教員が主体的に、そして明確な意図をもって授業作りに取り組み、研究協議会で学びを深めることができた。実践報告会を校内研究全体会に実施することで、見方・考え方に関する研修を深めることができた。
- 3・4年生の「のびのびタイム」は、個別の学習に取り組む時間として活用でき、1教室に複数教員が関わることで、児童の学習意欲が向上したり、集中して復習に取り組んだりする姿が見られた。算数科における、つまずきの多い単元を集中して復習できたことは大きな成果である。
- 1・2年生に習熟度別算数の時間講師を配置し、丁寧に指導することで、「算数が苦手。」という児童を減らすことができた。
- 「はちおうじっ子ミニマム」の進め方について定着を図れた。満点をとれる児童の数が、少しずつ上昇し、自信を育むことができた。
- 授業の構造化に、意識的に取り組む学級が増えた。学校評価（保護者アンケート）でも、板書や発問を含め、分かりやすい授業に関する質問項目で91.2%の保護者から肯定的評価を得ることができた。
- 「はちおうじっ子ミニマム」の結果を分析すると、二極化の傾向が見て取れるため、下位層児童の意欲が継続できるような取り組みが必要である。
- 小中一貫教育に関して、グループ校4校の距離が離れていることもあり、学校間の児童同士や児童・生徒間の交流が十分とは言えなかった。中学生の職場体験や地域清掃の機会を貴重な機会と捉え、一層内容の充実を図っていく。
- 朝学習における算数の時間について、学年学級によって運用に幅が見られるので、一人一台の学習用端末を活用するなど、学力向上部が中心となって改善を推進していく。

(3) 健やかな体と体力・気力の育成

- 運動に親しむ態度を育て、体力増進・健康維持について関心を高める。
- あきらめない根気強さ、最後までやり抜くたくましさを身に付けさせる。
- 安心、安全な生活を送るための知識や技能を定着させる。

【主な取組】

- ・ 体育的行事や体育的活動の充実
(運動会、体力テスト、大縄集会、持久走月間、なわとびカード 等)
- ・ 休み時間の外遊び励行
- ・ 専門家や外部機関との連携による安全教育の充実
(交通安全教室、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、自転車安全教室、歩行訓練 等)
- ・ 「夢大地」(自然観察・農業体験・伝統芸能習得活動)の取組の充実と継続

【成果と課題】

- 運動会における走競技での得点制や選抜リレー、全校での大玉送りを継続し、児童と保護者に定着させることができた。地域や保護者からも好評であった。
- 体育的な活動については、計画通り実施できた。「なわとびカード」に熱心に取り組む児童が増え、休み時間にも検定に挑戦する姿がよく見られた。持久走月間や大縄集会への取組に関しては、天候にも恵まれ、活発に運動に取り組む児童が増えた。
- 交通安全教室やセーフティ教室、薬物乱用防止教室、自転車安全教室などにおいて、専門家や外部機関の方にゲストティーチャーとして来校していただくことにより、児童にとって新鮮な学びの場となり、内容の理解や実践につなげようとする意識が高まった。
- 「夢大地」については、各学年とも前年度にならって継続、実施できた。学校運営協議会の協力を得て、新しい栽培体験を取り入れることができた。地域と連携した総合的な学習の時間を実施できた。また、学校運営協議会主催事業ということで、4年生以上にゲストティーチャーによる海洋教育を実施できた。保護者の参観も昨年度より増えて、海洋教育を広めることができた。
- 豊年太鼓や箏体験授業など特色ある活動を継続することができた。
- 夏に熱中症指数が高く、体育や休み時間の外遊びに制約がかかる日が多く見られた。体育館の空調設備の性能を確かめた上で、体育館を効果的に活用して、児童の体を動かす機会を確保していきたい。
- 体力テストの種目とつながりのある運動を、日常的に行えるように工夫することで、結果の向上や運動の日常化につなげていきたい。

(4) 保護者・地域・近隣学校との連携のもとに再び開かれた学校づくり

- 保護者との連携を密にし、教育の相乗効果を図る。
- 学校の説明責任を果たし、情報の公開や積極的な発信に努める。
- 学校運営協議会の協力のもと、地域と学校の連携・協働を進める。
- 小中連携を強化、活性化し、学びや生活指導の連続性を図る。

【主な取組】

- ・ 学習ボランティア等で保護者が来校できる機会を意図的に、増やす。PTA 関連で来校した際等、教室の様子を見たり、担任とコミュニケーションを図ったり、遠慮なく行うよう呼び掛ける。

- ・ 学校だよりや Home&School、学校日記（ホームページ）による情報発信
- ・ 学校評価アンケートを活用した教育活動の改善
- ・ 小中一貫グループ校（由井中学校、由井第二小学校、由井第三小学校、片倉台小学校）で連携し、「9年間で育てたい児童・生徒像」を定め、連携を深める。

【成果と課題】

- 学校公開や授業での見守りボランティア、図書ボランティア等で、保護者の来校する機会が大きく増えた。素顔で、対面で直接保護者と学校側が話す機会が増え、コミュニケーションを深めることができた。
- 学校だよりを Home&School での配信に完全移行し、保護者にも浸透した。学校から情報発信するツールとして活用し、自己肯定感を高めることについて重点的に伝えることができた。
- ホームページの「学校日記」は、昨年度より更新頻度を上げることができ、学校生活の様子を発信できた。
- 小中一貫教育の取り組みを通して、「子どもサミット」の進め方を定着させることができ、オンライン会議等に児童が参加することで、児童会を中心とした6年生の意識を向上させることができた。
- 学校評価アンケートの回収率が昨年度より向上したが、以前として低い回収率（42.3％）であった。Web と紙面の2つの方法から選べることを、保護者へ一層周知するとともに、協力を求める方法を検討する。
- ホームページの「学校日記」に関して、学年により更新頻度に差が出てしまっている。昨年度より更新回数自体は改善したが、差が少なくなるようにしていきたい。